

アクティブ・ラーニングの定義

June 10, 2015 22:14

文部科学省が新指導要領で示している学力の構成要素として、以下の3本の柱が提示されています。

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- (3) 主体的に学習に取り組む態度

そして、新しい学力観に沿った教育・学習の手法として「アクティブ・ラーニング」の推進を要請しています。文部科学省の用語集に記載されている定義は以下の通りです。

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。

学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

本校の先生方も予てより、知識・技能・思考力・判断力・表現力・主体性・多様性・協働性を練磨するための授業改善に取り組んできました。

下記の写真は、1年生の国語の授業の風景です。文部科学省の定義に従えば、アクティブ・ラーニングの一類型ということになります。



